

## 福島3号核爆発の論拠集および証拠集(改7)

2016年6月10日

藤原節男(脱原発公益通報者原子力ドンキホーテ)

元原子力安全基盤機構検査員

元三菱重工業(株)原発設計技術者

〒279-0021 千葉県浦安市富岡

TEL&FAX: 047-351-7497

携帯電話: 090-1793-4404

E-mail: fujiwara\_setsuo2004@yahoo.co.jp

はじめに:

2016年3月11日、3・11、福島原発事故5周年を機に、SNS(Social Networking Service、ソーシャル・ネットワーキング・サービス)キャンペーンホームページ(Change.org)を使用して、つぎに示す映像記録キャンペーンを始めました。

【映像証拠キャンペーン】福島3号爆発は、設計ミスによる原子炉格納容器外の核爆発、使用済燃料プールでの核爆発⇒ <https://goo.gl/ji6Wlh>

本資料は、映像証拠キャンペーン⇒ <https://goo.gl/ji6Wlh> を補足するために作成しました。本資料は、福島3号核爆発説の写真証拠、映像証拠を余すことなく示しています。本資料をご覧になった方々は、福島3号核爆発を確信することでしょう。

おもな映像証拠は、以下の(1)(2)(3)のとおりです。

(1)【映像証拠】仏独共同の国営放送局ARTE「フクシマ-最悪事故の陰に潜む真実」Part3/4⇒ <http://www.dailymotion.com/video/x41nwqg>

(2)【映像証拠】福島3号核爆発の新証拠、セシウムホットボール⇒ <http://goo.gl/SHlrpw>  
空中水蒸気が温度低下で凝縮し、表面張力で真球の水滴となり、虹ができると同様、核燃料が核爆発でガス化、プラズマ化して、爆発後は、断熱膨張で内部温度が下がり凝縮し、表面張力で真球のセシウムホットボールができたと考えるのが自然です。

(3)【映像証拠】福島3号核爆発の証拠集⇒ <http://www.dailymotion.com/video/x41nzc3>

これらの映像証拠、写真証拠を基にして、以下に示す【核爆発論拠1~13】を作成しました。また、典拠(参考文献、WEBサイトなど)を【典拠1~36】として本資料の末尾に示しました。

NHKドキュメンタリ番組「映像の世紀」でも明らかのように、映像証拠が真実を語り、世界を動かします。映像証拠を見ないと、だまされます。「沈黙の羊たち」になってしまいます。みなさん、ぜひとも、映像証拠をごらんください。真実を知ってください。ぜひとも、映像証拠キャンペーン⇒ <https://goo.gl/ji6Wlh> に賛同署名ください。大拡散してください。みなさんの一人一人が、世界を動かします。「民」という字の語源は「目を針で突いて目を見えなくした奴隷」⇒ <https://goo.gl/D8F9eB>



図1 福島3号核爆発の連続写真



図2 福島1号と福島3号との爆発比較写真 (注)「3号機の水素爆発」は、表記まちがい



図3 左側が福島3号、右側が福島4号  
撮影：2011年3月24日



図 4-1 写真上部の福島 3 号タービン建屋には二つの大穴  
撮影：2011 年 3 月 24 日

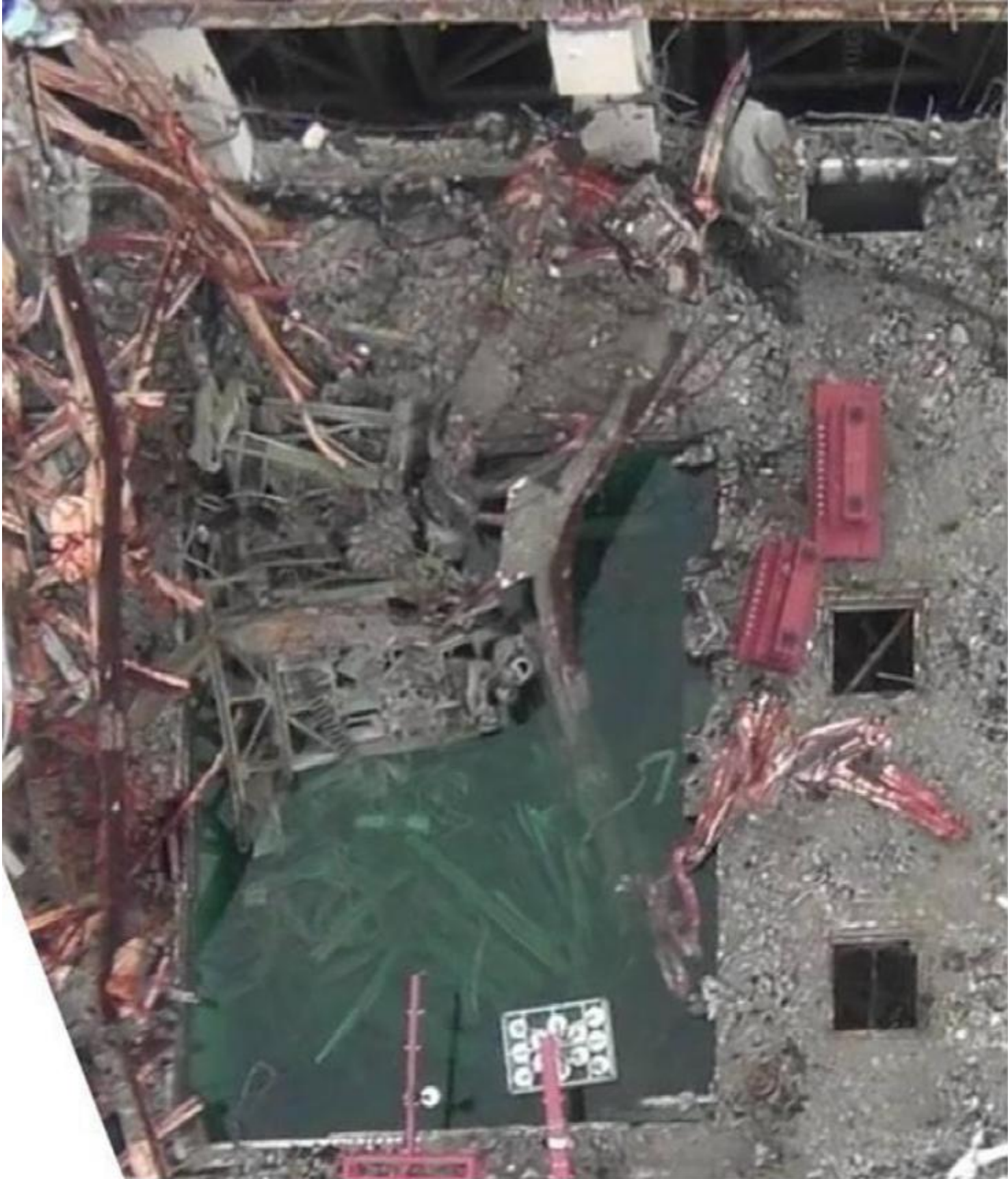


図 4-2 福島 3 号使用済燃料プール、フレーム鉄骨除去後の写真

【核爆発論拠 1】(図 1)(図 2)(典拠 17)(典拠 18)

福島 3 号機爆発でのオレンジ色の光は、原子炉建屋中央部からではなく、原子炉建屋南部(使用済み燃料プールの上方)から発生した。核爆発の特徴は、ピカドンであり、核爆弾と同様、内包するエネルギーが膨大で、熱線、ガンマー線が発生する。温度も1 万度以上に上昇す

る。そのため、ピカッと、明るいオレンジ色に光る。3号機使用済み燃料プール内の燃料が核爆発したとすると、つじつまが合う。もし、水素爆発でオレンジ色の光が発生したとすれば、原子炉建屋5階に充満した水素ガスの爆発ゆえ、最高温度空間は原子炉建屋中央上方となる。したがって、オレンジ色の光は、原子炉建屋中央部から発生するはず。もっとも、水素爆発では超高温にはならないため、オレンジ色の光が発生しない。1号機水素爆発映像記録がその証拠。福島3号爆発映像記録のようなオレンジ色の光と黒いきのこ雲が、大気圧の水素爆発で発生するのかどうかは、水素爆発実験で一目瞭然。理科教室の大気圧水素爆発実験では、オレンジ色の光も黒い煙も発生しない。

追記) 典拠 34

[http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2015/images/handouts\\_150804\\_05-j.pdf](http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2015/images/handouts_150804_05-j.pdf)  
[http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2015/images/handouts\\_151016\\_08-j.pdf](http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2015/images/handouts_151016_08-j.pdf)

上記 URL のとおり、東電は、福島3号使用済み燃料プール内周辺部分の燃料ラックが損傷を受けていない写真を発表している。この写真について「もしプール内で核爆発があれば、その爆源、爆心である燃料集合体とそれを保持する燃料ラックは衝撃力と超高熱で壊滅的大変形は免れないと考えられる」との意見もある。しかし、福島3号使用済み燃料プール内中心部分の燃料ラックで核爆発が生じた場合、核爆発に関与しなかった周辺部分の燃料ラックが損傷を受けないことは推定可能である。つまり、福島3号使用済み燃料プール内核爆発は、垂直上方に向けられた大砲に例えることができる。砲弾を発射する時、大砲の砲身は損傷しない。砲身内側が、非凝縮性の水で満たされている場合、その砲身水中にある周辺燃料ラックは、周囲から均等に高圧を受ける。周辺燃料ラックも非凝縮性であるから、高圧を受けても破壊されることはない。水中核実験の場合も同じ。

【核爆発論拠 2】 (図 3) (図 4-1) (典拠 17) (典拠 18)

福島3号使用済み燃料プール付近の屋根フレーム鉄骨が局所的に飴細工のようにひん曲がった。燃料プール使用済み燃料集合体での局所的な核爆発と考えられる。単位体積当たりの発生熱量が大きいと、局所的に1万度以上の超高温部が発生した。局所的な超高温部からの熱線、ガンマー線に晒された屋根フレーム鉄骨は瞬間的に熱を吸収し、飴細工のように曲がる。もし、水素爆発だとすると、原子炉建屋5階全体での均等爆発となる。単位体積当たりの発生熱量が小さいと、局所的な超高温部は存在しない。したがって、屋根フレーム鉄骨自体は曲がらない。水素爆発の場合には、フレーム鉄骨全体が格子状のままの福島1号爆発、福島4号爆発と同じ状況となる。福島1号爆発後の建屋内部写真では、フレーム鉄骨は焼け焦げず白ペンキがそのままであった。理科教室の大気圧水素爆発実験でも、ペットボトルすら溶けることはない。

【核爆発論拠 3】 (図 1) (図 2) (典拠 17) (典拠 18)

福島3号機爆発での「きのこ雲」は黒煙であった。核爆発の場合には、超高温となり、燃料ペレット中の金属成分までも蒸発してしまう。金属成分が蒸発し、断熱膨張で冷えて、固化すると黒く見える。このため、黒煙ができた。もし、水素爆発だとすると、酸素と水素が化合反応で結合した後に、水蒸気の断熱膨張となる。爆発後は内部温度が下がってくるため、水蒸気は冷えて、表面張力による真球の水滴となる。そして、福島1号機同様、白煙となる。

【核爆発論拠 4】 (図 1) (図 2) (典拠 17) (典拠 18)

きのこ雲が600mもの上空に上昇した。核爆発の場合には、発生エネルギーが膨大で、煙が超高温となり、ガス膨張力が強いと、だんだんと膨張しながら、上昇気流に乗って600mも上昇した。その際、周囲の空気を下から巻き込むため、きのこ雲の形状となった。きのこ雲

は小型原爆実験での映像記録と類似形状であった。もし、水素爆発だとすると、核爆発と比較して、単位体積当たりの発生熱量が小さく、温度が低く、ガス膨張力が弱いため、600mもの上空には煙が達しない。

【核爆発論拠 5】(図 3)(図 4-1)

3号機原子炉建屋は、建屋南部(使用済み燃料プール部上方部)を中心にして屋根が破壊されている。使用済み燃料プール内の燃料集合体が核爆発したとすると、つじつまが合う。もし、水素爆発だとすると、原子炉建屋5階に充満した水素が爆発するために、屋根、建屋がある程度、均等に破壊される。その点、福島1号機、4号機は屋根、建屋がある程度、均等に破壊されていたため、水素爆発である。

【核爆発論拠 6】(図 1)(図 2)(典拠 17)(典拠 18)

きのこ雲から、巨大な瓦礫が落下した。核爆発が使用済み燃料プール内で生じて、燃料プール水面の約1m上方にある、燃料取り扱いクレーン用モータ、巻き上げ機等を上空に吹き飛ばして、この巨大瓦礫になったものと推測される。もし、水素爆発だとすると、原子炉建屋5階全体空間の爆発のため、5階空間内(圧力境界内)下部にあるクレーン用モーター、ワイヤー巻き取り器等を上空高く吹き飛ばすことはない。水素爆発で上空高く持ち上がるものは、爆発の圧力境界外にある屋根材(スレート材とかパネル材)だけ。したがって、きのこ雲から、巨大な瓦礫が落下することはない。

【核爆発論拠 7】(典拠 17)(典拠 18)

プルトニウムが飯館村、米国まで飛散した。水素爆発であったなら、プルトニウムの発生源は、格納容器内の炉心溶融物(コリウム)に限定される。炉心溶融物(コリウム)のプルトニウムは二酸化物(PuO<sub>2</sub>)のままの状態となっており、酸化珪素焼結物(SiO<sub>2</sub>、瀬戸物)と同様に溶融物から蒸発飛散はしない。したがって、プルトニウムは、核爆発により、使用済み燃料プール燃料ペレット中の金属成分が蒸発したものである。

【核爆発論拠 8】(典拠 3)(典拠 5)

典拠 3に示す福島3号機の瓦礫撤去用クレーン先端に付けたカメラによる動画を見てください。動画で3:30～及び4:30～に燃料棒被覆管破片が1個、別の場所に別の燃料棒被覆管破片1個が見える。この燃料棒被覆管は黒ずんではない。ぴかぴかの銀白色である。新燃料集合体の燃料棒被覆管破片である。福島3号原子炉建屋5階の使用済み燃料プール床面に燃料被覆管と推定される破片が発見された。

これは、核爆発の際に、使用済み燃料プールに保管していた新燃料集合体が破壊され、生じた被覆管破片瓦礫である。なお、新MOX燃料集合体を使用済み燃料プールに保管していた場合には、遅発中性子割合が0.2%で、ウラン燃料の遅発中性子割合0.65%に比較してかなり小さいため、即発臨界(核爆発)を生じやすい。もし、水素爆発であれば、使用済み燃料プール水面上方空間での爆発なので、燃料集合体の燃料棒被覆管破片瓦礫が存在しない。水素爆発で燃料棒被覆管破片瓦礫が存在する理由がない。

【核爆発論拠 9】(図 4-1)(典拠 6-2)

福島3号きのこ雲からの落下瓦礫により3号タービン建屋屋根に直径14mと直径4mの大穴2個。屋根修理の作業員が12mSvの大量被ばく。核爆発の場合は、瓦礫に大量放射能がある。もし、水素爆発であれば、3号機タービン建屋屋根には、大量放射能がないため、大量被ばくは

しない。



図5 福島4号5階(オペレーティングフロア)鉄骨フレーム瓦礫除去後の写真

【核爆発論拠 10】(図5)

福島4号機は、オープンエアの中で工事をやっていた。その時期、3号機側に、オレンジ色の衝立(バリア)を建てていた。これは福島3号機からの高放射線を遮蔽するためという東電説明であった。福島3号機瓦礫から高放射線があるということは核爆発の証拠である。もし、水素爆発であれば、福島1号機同様に福島3号機側に高放射線源がない。



＜参考＞シールドプラグ周辺の雰囲気線量測定結果（7月23日・24日）

◆シールドプラグ周辺の雰囲気線量測定位置

◆雰囲気線量測定結果

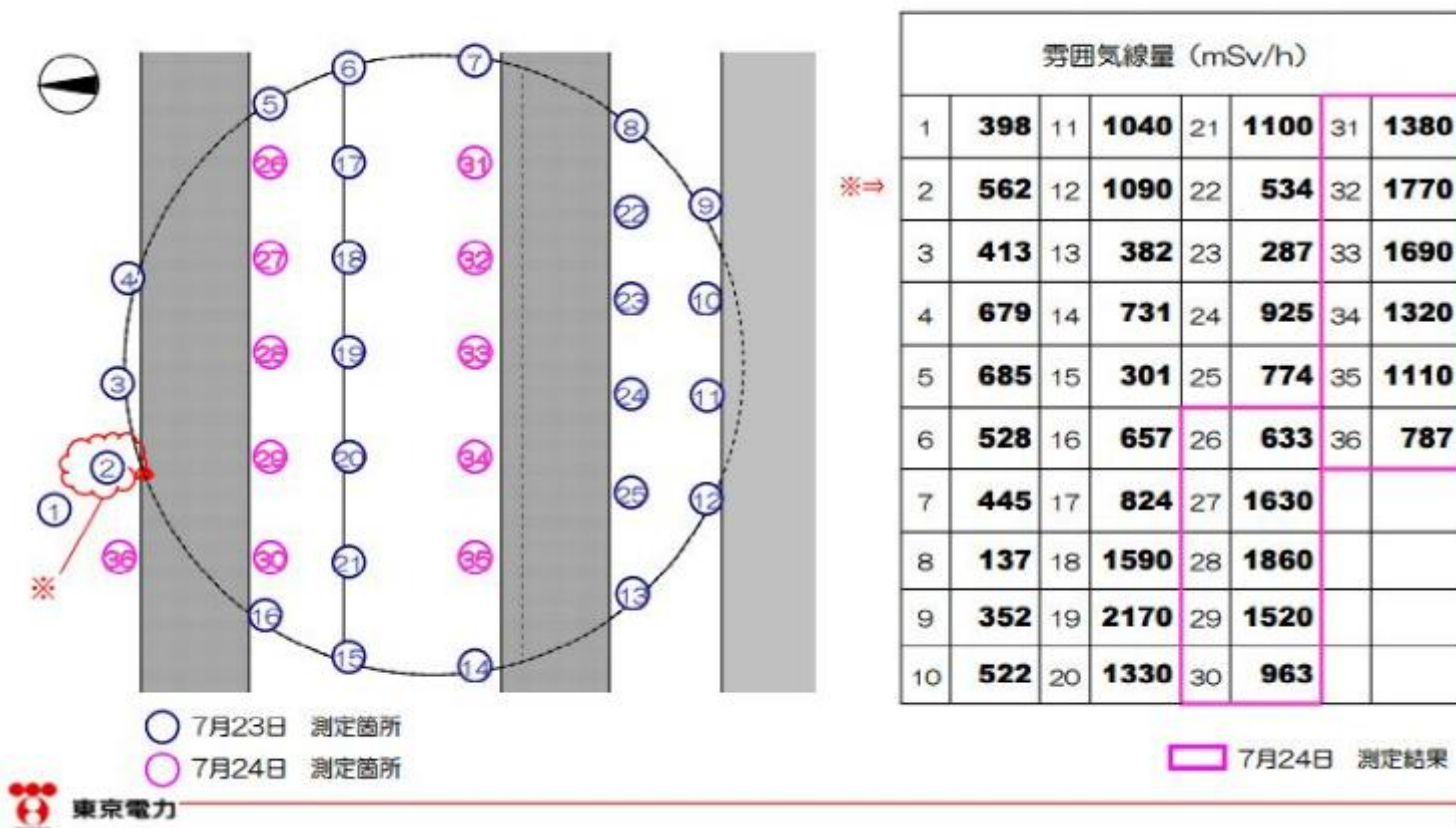
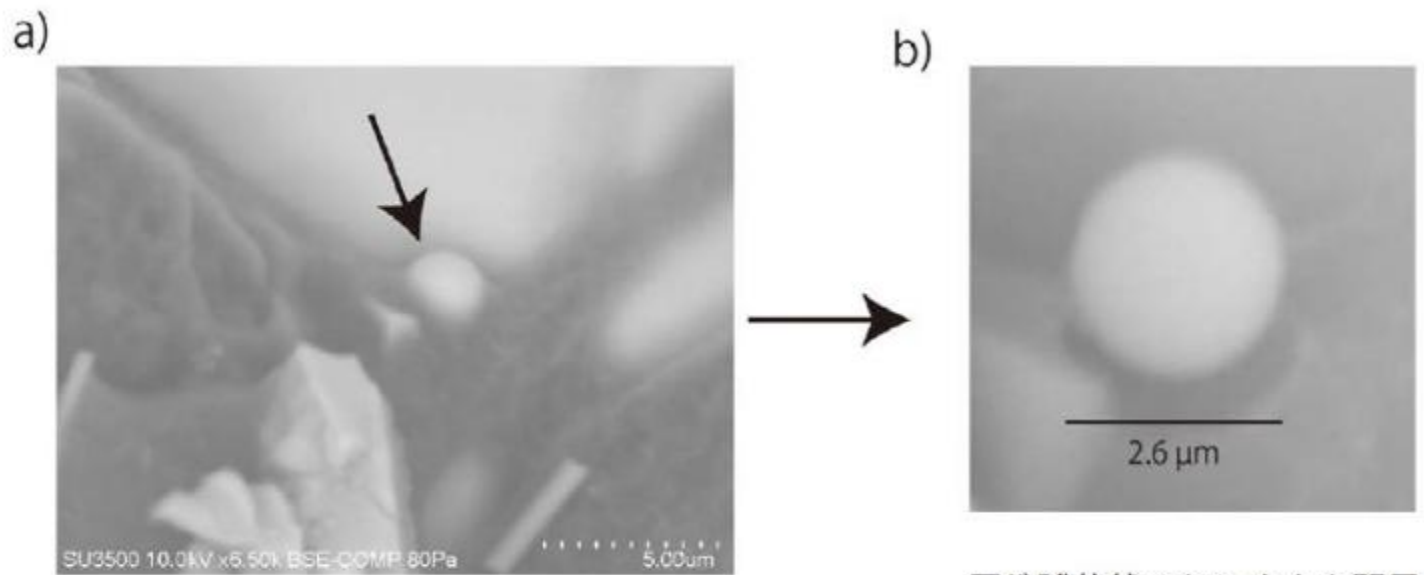


図6 福島3号機5階 シールドプラグ周辺の雰囲気線量測定結果

【核爆発論拠11】(図6)(典拠35)

平成25(2013)年7月23日、24日に、7月18日の3号機蒸気噴出(湯気とも言う)の原因究明のために、東電が、福島3号機コンクリートシールドプラグ周辺の雰囲気線量測定し、最大値2,170mSv/時を確認した。放射線源の場所と湯気の場所とは関係なかった。高放射線源の場所は、コンクリートシールドプラグ上の瓦礫集積場所であった。コンクリートシールドプラグ上の瓦礫は、使用済燃料プール核爆発で生じたものと推定できる。高放射線源は、瓦礫中の核燃料ペレット等である可能性大。もし、水素爆発であれば、瓦礫集積場所が高放射能になることはない。



炭素ペーストに入り込んだ球体状のセシウム

同じ球体状のセシウムを翌日直径を測定したもの。球形をしていた。

【出典】 Emission of spherical cesium-bearing particles from an early stage of the Fukushima nuclear accident  
 Kouji Adachi, Mizuo Kajino, Yuji Zaizen & Yasuhito Igarashi SCIENTIFIC REPORTS 2013年8月30日

【編集】 川根 眞也

図7 真球セシウムホットボールの電子顕微鏡写真

【核爆発論拠 12】 (図7) (典拠 19) (典拠 36)

【映像記録】 福島3号核爆発の新証拠、セシウムホットボール⇒ <http://goo.gl/SHlrpw>  
 NHK ニュースウェブ2014年08月09日⇒  
<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20140809/k10013675161000.html>

東京理科大学の中井泉教授らの研究グループは、福島第一原発の事故直後の2011年3月14日の夜から翌朝にかけて原発から130キロ離れた茨城県つくば市で採取した大気中のチリを兵庫県にある大型の放射光施設「スプリング8」で分析した。その結果、放射性セシウムのほか、ウランや燃料棒の素材のジルコニウム、圧力容器の素材の鉄など、核燃料や原子炉内の構造物と一致する物質が検出されたということです。これらのチリは直径2マイクロメートルほどのボール状をしていて、高温で溶けたあと外部に放出されるなどして急に冷えた場合の特徴を示している。

空中水蒸気が温度低下で凝縮し、表面張力で真球の水滴となり、虹ができると同様、福島3号使用済燃料プール核燃料が核爆発でガス化、プラズマ化して、爆発後は、断熱膨張で内部温度が下がり凝縮し、表面張力で真球のセシウムホットボールができたと考えるのが自然です。

○論文： 福島原発事故により放出された放射性微粒子の危険性  
 —その体内侵入経路と内部被曝にとっての重要性—

2014年10月13日 (2014年12月18日改訂) 放射性微粒子の危険性の完成版 (渡辺悦司氏、遠藤順子氏、山田耕作氏の共著) ⇒ <http://yahoo.jp/box/dzEJil>  
<http://goo.gl/wzSI8d>

論文のP.4 ~ P.8には、「飛散粒子が球状であることから、生成過程で高温に晒されたはずだ。だから核爆発があったのだ」という推論が書いている。以下のとおり。

[論文のP. 4 ~ P. 8、抜粋]

#### 1-1-2. 炉心溶融の温度メカニズム

・高温になって気化した放射性物質が爆発あるいは漏洩によって放出され、その後に大気中で冷却されて微粒子が形成される。最近、事故当時採取された放射性微粒子が、セシウムだけでなく、ウラン、ジルコニウム、モリブデンなどの原子を均一に含む合金・ガラス状の球体であることが解明された。このような配列は、爆発によってあるいは炉心溶融物内で、温度がメルトダウンの温度（上記 2865°C）を大きく超えて上昇した可能性が高いことを示している。水素爆発の火炎温度は、空気との反応で 2040°Cでしかなく（注9）、このような高温を生じることができない。

（注9）

水素の大手供給業者、岩谷産業の「水素とイワタニ」というサイトで解説されている。⇒ <http://www.iwatani.co.jp/jpn/h2/faq/faq.html>

#### 1-1-3. 微粒子形成の条件としての超高温—再臨界

それができるのは核爆発・再臨界だけであると考えるのが自然であろう。微粒子の分析の結果によれば、再臨界あるいは核爆発が生じていたであろうことは、ほぼ否定できない（とくに 3 号機、おそらく 1 号機も）といえる（注 10）。

（注 10）

理化学研究所研究員であった榎田敦氏は、「臨界は簡単には起きないというのはウソであり」「5-10%低濃縮ウランは、水があれば核分裂を起こして爆発する」として、核爆発を主張している。

#### 【核爆発論拠 13】

なお、次に示す2013年8月19日の福島3号機瓦礫撤去作業による放射能拡散も、福島3号機核爆発（ピカドン）の新証拠と言える。⇒ <http://goo.gl/U8n84X>

朝日新聞 2014年7月23日 23時04分 ⇒ <http://goo.gl/OExetz>

[http://digital.asahi.com/articles/ASG7R6GR2G7RULBJ012.html?iref=comtop\\_6\\_06](http://digital.asahi.com/articles/ASG7R6GR2G7RULBJ012.html?iref=comtop_6_06)

東京電力が2013年8月に福島3号機で実施したがれき撤去作業で、敷地外に放射性物質が飛散した問題で、東電は7月23日、4時間で最大1兆1千億ベクレルの放射性物質が建屋外に出たとする推計結果を明らかにした。第一原発からは現在も1時間あたり1千万ベクレルが出ていると推計されているが、2万倍以上が出たことになる。どれだけが敷地外に出たかは不明という。

飛散が指摘されているのは2013年8月19日で、この日は3号機で大規模がれき撤去作業をしていた。風下での計測データと、構内で放射性物質の粉じん濃度が高まったときに出る警報が4時間続いたことを踏まえ放出量を逆算。原子力規制委員会の検討会に報告した。

=====

典拠（参考文献、WEBサイトなど）：

【典拠 1-1】【改訂追補版】福島3号爆発はピカドン（核爆発） 藤原節男のホームページ  
<https://groups.google.com/forum/?fromgroups#!topic/nuclear-whistleblow-in-jnes/mfo-JRHor34>  
アーニーガンダーセンの英文メールとBORAX experiment（沸騰水型原子力発電所開発時のボラックス実験）の紹介など

【典拠 1-2】 <http://www.dailymotion.com/video/x41nzc3>

福島3号機は核爆発：藤原節男 背景音楽、シヨスタコーヴィツィ交響曲第5番第3楽章

【典拠 2】 <http://kiikochan.blog136.fc2.com/blog-entry-2898.html>

藤原節男「3号機燃料プールの核爆発が新安全基準には全然反映されていない」

2013年4月2日集会：原子力規制を監視する市民の会「新安全基準骨子案」の問題点を暴く（文字起こし）

【典拠 3】 <http://youtu.be/9GgjHMUV0EY>

福島3号機の瓦礫撤去用クレーン先端に付けたカメラによる動画。動画中3:30～及び4:30～に燃料棒被覆管破片が1個、別の場所に別の燃料棒被覆管破片1個が見える。この燃料棒被覆管は黒ずんではない。ぴかぴかの銀白色である。新燃料集合体の燃料棒被覆管破片である。使用済燃料プールに保管していた新燃料集合体が核爆発を生じたため生じた被覆管破片瓦礫である証拠となる。水素爆発で燃料棒被覆管破片瓦礫が存在する理由がない。なお、新MOX燃料集合体を使用済燃料プールに保管していた場合には、核爆発を生じやすい。

【典拠 4】 <http://goo.gl/ul22u3>

連鎖反応 ウィキペディア

【典拠 5】 <http://www.kz.tsukuba.ac.jp/~abe/ohp-nuclear/nuclear-08.pdf>

原子炉の動特性：ウラン235の遅発中性子割合は0.65%程度、プルトニウム239の遅発中性子割合が0.2%程度である。使用済み燃料やMOX燃料の場合にはプルトニウム239成分が多いので即発臨界になりやすい。

【典拠 6-1】 <http://onodekita.sblo.jp/article/47288311.html>

院長の独り言：小野俊一院長ブログ、3号機の爆発—どう考えても核？爆発当時の報道から

【典拠 6-2】 <http://onodekita.sblo.jp/article/46909479.html>

院長の独り言：小野俊一院長ブログ、3号機タービン建屋の大穴・・・高線量のガレキでは？

【典拠 7】 <http://onodekita.sblo.jp/article/73250255.html>

院長の独り言：小野俊一院長講演会、原子炉級プルトニウムによる核爆発と1F-3燃料プール

【典拠 8】 <http://onodekita.sblo.jp/article/57050695.html>

院長の独り言：講演会のDVDと小冊子（新発売）の紹介、小野俊一院長が講演会で福島3号核爆発を説明している動画（Youtubeの公開版）があります。

【典拠 9】 <http://www.youtube.com/watch?v=1Q3ljfLvHww&feature=share>

福島1号爆発と福島3号爆発との動画比較及び、そっくりな核爆弾実験との動画比較。

【典拠 10】 <http://www.youtube.com/watch?v=LPIyVSdQnRE&feature=share>

米国ガンダーセン博士は、3号機は即発臨界（核爆発）と考えている。

【典拠 11-1】 <http://www.youtube.com/watch?v=2onC01URt9c&feature=share>

Two Theories - 福島第一原発3号機

【典拠 11-2】 <http://www.youtube.com/watch?v=DGnKN7NzYik&feature=share>

Fukushima Unit 3 プルーム

【典拠 12】 <http://goo.gl/0z2jMA>

ウィキペディア、日本の原子爆弾開発：第二次世界大戦中に日本で行われた原子爆弾の開発計画。仁科芳雄による仁科原爆の構造は、現在知られているものとは異なり、容器の中に濃縮したウランを入れ、さらにその中に水を入れることで臨界させるというもので、いわば暴走した軽水炉のようなものであった。

【典拠 13】 <http://goo.gl/cm8XNK>

ウィキペディア、ナチスドイツの原爆開発について：重水は高価で、高速中性子の減速能力は軽水に劣る。しかし、中性子吸収量が小さく（軽水の300分の1）減速材として優れており、燃料として安価な天然ウランを使用できる。このため、天然ウランに99.3パーセント含まれるウラン238に吸収させないようにして、残りの0.7パーセントのウラン235に減速した中性子を集中させて、確実に連鎖反応を起こさせるという理論であった。

【典拠 14】 <http://blog.livedoor.jp/amenohimoharenohimo/archives/65820327.html>

3号機爆発が「水素爆発」と発表された驚愕の舞台裏！—— 東電・高橋明男フェロー「水素爆発かどうかわからないけど 国や保安院が言ってるからもういいんじゃないの 水素爆発で」 ざまあみやがれい！

【典拠 15】

[http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2013/images/handouts\\_130527\\_03-j.pdf](http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2013/images/handouts_130527_03-j.pdf)

福島第一原子力発電所 第3号機 原子炉建屋上部瓦礫撤去工事、使用済燃料貯蔵プール養生 ならびに スキマサージタンクハッチ養生の更新について平成 25(2013)年 5月 27日

【典拠 16】

[http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2013/images/handouts\\_130724\\_05-j.pdf](http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2013/images/handouts_130724_05-j.pdf)

福島第一原子力発電所 3号機 5階、シールドプラグ周辺の雰囲気線量測定について平成 25(2013)年 7月 24日

【典拠 17】【映像記録キャンペーン】福島 3号核爆発⇒ <https://goo.gl/ji6Wlh>

福島 3号爆発は、設計ミスによる原子炉格納容器外の核爆発、使用済燃料プールでの核爆発。

【典拠 18】⇒ <https://youtu.be/GjwQHW78Afs>

【映像記録】仏独共同の国営放送局 ARTE 「フクシマ-最悪事故の陰に潜む真実」 Part3/4 (2012/04/08 に公開)

【典拠 19】【映像記録】福島 3号核爆発の新証拠、セシウムホットボール⇒ <http://goo.gl/SHIrpw>

<http://goo.gl/bN54HI>

【典拠 20】福島 3号核爆発:2013年 8月 19日の福島 3号機瓦礫撤去作業による放射能拡散 ⇒ <http://goo.gl/U8n84X>

【典拠 21】福島 3号核爆発が、福島原発事故放射能の最大原因⇒ <https://goo.gl/JXMWie>

【典拠 22】【映像記録キャンペーン】市民が目指す司法改革：映画「日独裁判官物語」 ⇒ <https://goo.gl/wdW696> ⇒ <https://goo.gl/wPHGQw>

【典拠 23】【映像記録キャンペーン】独 ワイマール憲法の“教訓、なぜ独裁が生まれたのか⇒ <https://goo.gl/z0cQTq>

【典拠 24】核爆弾大量製造は、プルサーマルだけで可能、もんじゅ不要⇒ <https://goo.gl/7n0a1D>

【典拠 25】脱原発ドンキホーテ⇒ <http://goo.gl/5FhVVN>

【典拠 26】原子力公益通報および「原子力ドンキホーテ」単行本⇒ <http://goo.gl/ovNn1Y>

【典拠 27】「原発と民主主義」講演会資料⇒ <https://goo.gl/Qr5pmU>

【典拠 28】核燃サイクル曲がり角？揺れる下北半島⇒ <http://goo.gl/6X0sZf>

【典拠 29】原子炉級プルトニウムで核兵器⇒ <https://goo.gl/0u8nvr>

【典拠 30】日本が核を持つのは朝飯前⇒ <http://goo.gl/vC0wgq>

【典拠 31】爆縮レンズ：プルトニウム原爆の課題⇒ <https://goo.gl/40Edgz>

【典拠 32】爆縮レンズ開発⇒ <http://goo.gl/fmxjau>

【典拠 33】水素爆弾ウィキペディア⇒ <https://goo.gl/A6qmQE>

【典拠 34】福島3号機使用済燃料プール内の水中カメラによる調査結果 2015年8月4日および10月16日東京電力株式会社

[http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2015/images/handouts\\_150804\\_05-j.pdf](http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2015/images/handouts_150804_05-j.pdf)

[http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2015/images/handouts\\_151016\\_08-j.pdf](http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2015/images/handouts_151016_08-j.pdf)

【典拠 35】福島3号機5階 シールドプラグ周辺の雰囲気線量測定について20130724

[http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2013/images/handouts\\_130724\\_05-j.pdf](http://www.tepco.co.jp/nu/fukushima-np/handouts/2013/images/handouts_130724_05-j.pdf)

【典拠 36】論文：福島原発事故により放出された放射性微粒子の危険性

—その体内侵入経路と内部被曝にとっての重要性—

2014年10月13日（2014年12月18日改訂）放射性微粒子の危険性の完成版（渡辺悦司氏、遠藤順子氏、山田耕作氏の共著）⇒ <http://yahoo.jp/box/dzEJil>

<http://goo.gl/wzSl8d>

【典拠 37】2013年8月30日原子力規制委員会事故分析検討会（第3回）資料4⇒

<https://www.nsr.go.jp/data/000048772.pdf>

の9ページ目では、

【使用済燃料プール内の臨界の可能性】

○使用済燃料プール内の臨界の可能性については、使用済燃料プール内のがれき等の存在を考慮した解析の結果を踏まえ、今後検討予定。

と記載しており、臨界の可能性に含みを残して、判断を先送りにした形にしています。原子力規制

委員会は、世間的には、福島3号水素爆発を信じ込ませ、核爆発を放置し、のちのち、いよいよウソがばれるとなると「原子力規制委員会としては、臨界の可能性については今後検討予定としていた。検討が遅くなっただけ」と言い逃れをする準備である。

【(参考)現在、福島3号機爆発を核爆発と考えている科学者、技術者】

◎米国フェアウィンズ・アソシエーツ社 アーニー・ガンダーセン(米国原子力公益通報者)

◎欧州放射線リスク委員会・科学部長 クリストファー・バズビー(英国)

◎中部大学総合工学研究所教授 武田邦彦

◎元東京電力の原発技術者、熊本市開業内科医師(おのできた医院院長) 小野俊一

◎元名城大学経済学部教授 槌田 敦

◎元原子力安全基盤機構検査員、元三菱重工業(株)原発設計技術者 藤原節男